

取り違えを疑う母に、順天堂は「浮気の子供じゃないか」 “息子に会うまで死ねない”被害者母の告白

04月28日 08:02 **デイリー新潮** DAILY SHINCHO



インタビューに応じる母親

(デイリー新潮)

「週刊新潮」が報じてきた、小林義之さん（51）＝仮名＝の新生児取り違え事件に対し、当の順天堂は不誠実な態度を続けている。“本当の親に会いたい”との小林さんの願いが、「相手方の平穏な暮らしを壊してはいけない」という理由で退けられたのは既報の通り。小林さんに医師が説明していた「厚労省に医療事故として報告する」というのが「ウソ」であったことも、本誌の報道によって明るみに出ている。

* * *

あらためて小林さんが言う。

「いま、私が一番訴えたいのは、この問題をこのまま放置していいのか、ということです。順天堂は取り違えられた相手方当事者について、〈お知らせしないことといたしました〉と発表しましたが、その決定は正しいのでしょうか。順天堂にそんなことを決める権利があるのでしょうか」

これに対し、弁護士の田村勇人氏は、

「まだ判例もないと思いますが、取り違えた場合、可能性がある家族がわかっていて調べることも可能であるのなら、順天堂としては当然調査すべきでしょうし、厚労省から指導が入ってもおかしくないと思います」

との見解だ。

母親の告白

「生まれた直後に義之を見たとき、あごの辺りに青いアザがあった記憶があるんですが、いつの間にかなくなっていて。隣の病室の方は、ご主人が水産関係と話されていたのを覚えています。その方の子と取り違えられたのでしょうか」

小林さんの母親の恭子さん（76）＝仮名＝が語る。

「義之が歩くようになってからというもの、そこら中から“全然似てないね”と言われ続けて、お友だちに会うたびに、またそういう言葉が出てくるのかと、いつも重い気持ちでした」

小学校入学後、小林さんの血液が「A型」だと書かれたハガキが届く。

「私も夫も、私の両親も兄弟も全員B型なのに、A型の子が生まれるはずがありません。“やっぱり”と思って、ハガキを持って順天堂に3回ほど行ったんです。でも、病院側はこんなことで来るなという態度で、それこそ“シッシツ”っていう感じで、“浮気の子供じゃないか”とか、それはもうひどいことを言われました。その後はものすごいストレスで、雨戸を閉めて家に籠って、人との接点を全部絶っちゃったんです」

「会うまでは死んではならない」

ちなみに、順天堂の学是は「仁」だそうで、ホームページには〈人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心。これ即ち「仁」〉と書かれている。我を反面教師にせよ、と言いたいのか。

「自分のお腹を痛めた子はどこかにいて、関係ないのがこちらに来ている。義之も顔から性格まで私や次男と全然違うけど、私の本当の子も、引き取られた家で同じことになっているはずです。順天堂が言う〈平穏な生活〉なんて、あるはずないと思います。悪いのは病院。どれだけのダメージを与えられたかと」

恭子さんはこう結んだ。

「本当の息子にはもちろん会ってみたいですよ。そのために一生懸命、健康に留意してここまで来ているわけですから。死んではならない、会うまでは死んではならないって」

それでも、学校法人順天堂の小川秀興理事長は、本誌の直撃に、

「事故対策委員会に全部委ね、弁護士さんにもお願いしているので、なにも言えません。個人情報ですので」

と、まるで他人事。そもそも記者は、個人情報など尋ねていないのだが。

大学生になる小林さんの長男が語った。

「小学校でも、幼稚園でも、悪いことをしたらちゃんと謝ります。それさえしない順天堂は、病院という以前に人としてどうなの、と思います。個人的には自分の血筋を知り

たいし、本当の祖父母も知りたいです。でも、なにより父を本当の親に会わせてあげたいと、強く思います」

* * *

「週刊新潮」2018年4月26日号 掲載